



上海・蘇州・無錫
蘇州という街

(5)

中国南東部、江蘇省にある蘇州の人口は六百三十万人。省都南京の七百五十万人には及ばないが大都会である。このうち蘇州市だけの人口でも二百四十万人、全体でも百五十万人、全体の山口県とは比

較にならないスケールの大きさに圧倒される。しかし、蘇州は「都市」というより「街」といった方が似合う。新市街地区には近代的高層住宅が立ち並ぶが、旧市街地区は



夜遅くまでにぎわう山塘街



泊まった五つ星ホテル

昔ながらの住宅が多く、その間を運河が縦横に流れている。蘇州の魅力は「運河あり」「名園あり」のノスタルジックな旧市街にある。夜、狭い運河の両側に庶民の住宅が立ち並び、中を小舟で遊覧し、終着地・山塘街（さんとうがい）に着く。昔、商業地域として栄えたところで、狭い道路の両側に店が並んでいる。時計を見ると夜九時半を回っている。にもかかわらず大勢の観光客でにぎわっている。着飾らない生活のにおいが古き良き時代を連想させる。が、強行スケジュールのため山塘街散策にはならず街を通り過ぎただけだった。二、三日、滞在し、ゆつくり散策したい街

である。さて、蘇州で泊まったホテルは三十階建ての五つ星ホテル。格安ツアーなのになぜ高級ホテルに泊まれるかはよくわからない。早起きだけが取りえ、旅に出ても同じで、いつも早朝、ホテル周辺を散策する。ツアーに拘束されることなく、自分だけの自由な時間が意外にたくさん思い出をつくらされる。その地域で生活している人たちのにおいが朝の静寂の中にある。ホテルの窓から眼下の路上で何かを売っている店を見つけたので、まずそこに直行する。リヤカーの上で好み焼きのようなものを焼いている。すぐ近くにもう一つ同じような

露店があるが、なぜか一方だけに客が来る。味の違いか、別にはやる店の女性の方が美人というわけでもない。オムレツ状に焼けたものをビニールパックに入れてもらっている。朝食なのか、昼の弁当にするのかわからない。こんな時、現地の言葉が話せたらもつというんなものに出会えるのだが、笑顔だけでは限界がある。そこからもう少し歩くと夫婦で川魚とカニを売っている。蘇州郊外の農村地帯から売りに来ているのだろう。カンボジアやベトナムでもよくみかけた風景だ。売るのが野菜であったり、まきや炭であったりさまざまである。貧しくとも力強く生きていく人々は魅力的だ。強行スケジュールのためホテル出発は七時半。あわてて引き返した。（元山口放送取締役ラジオ局長）



早朝の路上で